

公開シンポジウム

# アジア文化の多元性と共存

—宗教と思想の視線から—

主催：日本学術会議哲学委員会 日本哲学系諸学会連合 日本宗教研究緒学会連合

企画：学術会議哲学委員会 「文化・価値の多元性」分科会

日本学術会議 講堂 (地図・ホームページより引用)

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

東京メトロ

千代田線乃木坂駅 5 番出口 徒歩 1 分

日比谷線六本木駅 2 番出口 徒歩 8 分

都営地下鉄

大江戸線六本木駅 7 番出口 徒歩 10 分



## 【開会挨拶】

野家啓一 (東北大学・理事 日本学術会議哲学委員会委員長)

## 【司会】

神崎 繁 (専修大学・教授 日本学術会議連携会員 西洋古代哲学)

星野英紀 (大正大学・教授 宗教学)

## 【コメント】

月本昭男 (立教大学・教授 日本学術会議連携会員 古代西アジア宗教史)

堀池信夫 (筑波大学大学院・教授 日本学術会議連携会員 中国哲学)

## 【報告】

池上良正 (駒澤大学・教授 宗教学)

東アジアの「民俗宗教」に見る葛藤と共存—「死者供養」を事例に—

黒住 真 (東京大学大学院・教授 日本学術会議連携会員 日本哲学/比較思想宗教)

近代日本哲学における宗教とその後

斉藤 明 (東京大学大学院・教授 日本学術会議連携会員 インド仏教学)

アジアと仏教—「輪廻」説の受容と変容の視点から—

塩尻和子 (筑波大学・副学長 イスラーム思想/比較宗教学)

アジア文化の中のイスラーム

2009年11月28日 (土) 13:00~16:30

参加費無料 事前のお申し込みは必要ありません。当日、会場へお越しください。どなたでもご参加いただけます。

連絡先：国際宗教研究所 Tel/Fax 03-5373-5855 E-mail bhutakoti@yahoo.co.jp

## 公開シンポジウム「アジア文化の多元性と共存—宗教と思想の視線から—」

1. 主催：日本学術会議哲学委員会、日本宗教研究諸学会連合、日本哲学系諸学会連合
2. 企画：日本学術会議哲学委員会「文化・価値の多元性」分科会
3. 日時：2009年11月28日（土）13：00～16：30
4. 会場：日本学術会議講堂

### 5. 次第

#### ・開催趣旨

西欧文明の卓越性への疑問が沸き上がってきてから、かなりの時が経過している。とくに21世紀になり、地球環境の悪化がいつそう深刻化し、人類未来の危機がますます現実化しつつある現在、人類のあらゆる叡智をもう一度洗い直そうという機運が満ちてきている。そのなかでも古くから高度の文明を築いてきたインド、中国を中心とするアジア文明の深遠さと可能性について、ますます注目が集まっているといっても過言ではない。

もちろんアジアといっても一様ではない。21世紀に入り、ヨーロッパにおいてはEU（欧州連合）がますます拡大しているが、アジアには、EUを構成する諸国に見るように一様な共通性があるわけではない。むしろアジアの特徴は多元性にあるといえよう。しかしその多元性は、多くの価値が共生しているという点に、他の文明にはない特徴を有しているといえるのではなかろうか。

現代の世界においては、経済レベルを中心に、ますますグローバル化が進行している。しかしそれと同時に、グローバル化への反発と、価値の多様化がいつそう顕著になっていることも、われわれは事実として認めなければならないであろう。

こうした複雑な様相の現代世界において、ますますその存在感を増しているアジア文明の重要性を、われわれは今あらためて注視しないわけにはいかない。そこでこのシンポジウムは、人文学諸分野、とりわけ哲学・思想、宗教、倫理等の専門研究者があい集い、あらためてアジア文明の多元性のもつ意味と、その近未来的な価値を論じてみようとするものである。

・司会：星野英紀（大正大学教授）

神崎 繁（専修大学教授）

・開会挨拶：野家啓一（東北大学理事・日本学術会議哲学委員会委員長）

・報告者

1) 齋藤 明 (東京大学大学院教授)

「アジアと仏教—<輪廻>説の受容と変容の視点から—」

2) 塩尻和子 (筑波大学副学長)

「アジア文化のなかのイスラーム」

3) 黒住 真 (東京大学大学院教授)

「近代日本哲学における宗教とその後」

4) 池上良正 (駒澤大学教授)

「東アジアの『民俗宗教』に見る葛藤と共存—『死者供養』を事例に—」

・コメンテーター：堀池信夫 (筑波大学教授)

月本昭男 (立教大学教授)

・ 討論

・ 閉会挨拶 丸井 浩 (東京大学大学院教授、日本学術会議哲学委員会副委員長)

\* 事前申し込みは必要ありません。